

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

スマホで読める、感動のコラム!



誰かがあなたを待っている

今は、厳しい冬のような“現実の壁”が立ちはだかっているかも知れませんが、試練の時を乗り越えれば、“桜花爛…”

続きはこちらから



絶妙な関係

桜花爛漫の季節から新緑が輝く季節へ……。新年度が始まり、早や1ヶ月が過ぎようとしています。教育現場の…

続きはこちらから



ニッケ教育研究所のホームページを、是非ご覧ください!

<https://nikke-edu.org/>

一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか? 子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記

世の中には非常に多くの情報があふれており、最近ではそれらの情報に容易にアクセスできる環境になっています。そのとき子どもたちは、自分が興味・関心のある情報に偏ったり、文字だけの情報に頼ったりしてしまいがちです。しかし、今まで知らなかったことに実際に「触れる」「体感する」ことで、言葉だけでは伝えきれない情報を感じとることができると思いますし、そのような良き経験がチャレンジ精神を育むのではないかと考えます。私たち大人は子どもたちへの思いで「つながり」を創り、子どもたちが広く世の中との「つながり」を経験することをサポートしたいと思います。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



FOLLOW US!



2023 春号 (年 4 回発行) No.13
2023 年 4 月 20 日 発行
本誌掲載の記事は、複写・複製・転載を禁じます。

《発行》 一般社団法人ニッケ教育研究所
〒541-0048 大阪市中央区瓦町 3 丁目 3-10
TEL: 06-6205-6665 <https://nikke-edu.org/>

特集

私がつくる子どもの笑顔 第9回

小さな学校 大きな笑顔

～「多様なつながりのある学習」の創造～

コラム

学校づくりのスタート<4つの心得>

学会参加報告

学校制服着用経験が共感性・攻撃性に及ぼす影響

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

※写真は茶畑と富士山(静岡県富士市)です

校園長の皆さまにおくる

学校づくりのスタート＜4つの心得＞

子どもは、「地域」「学校（学級）」「家庭」という、あたかも“3層のゆりかご”のような教育環境の中でこそ、あたたかく包み込まれ、育まれながら、成長していきます。いよいよ新年度がスタートしました。教育現場におかれましては、昇任された方、転勤された方、また、昨年度と同じ職場の方など、立場や状況は違ってもそれぞれが“心機一転”の気持ちで臨んでいることでしょう。そこで、年度始めに確認し合いたい＜4つの心得＞について、小学校での私の経験をもとに“3層のゆりかご”に沿って述べさせていただきます。

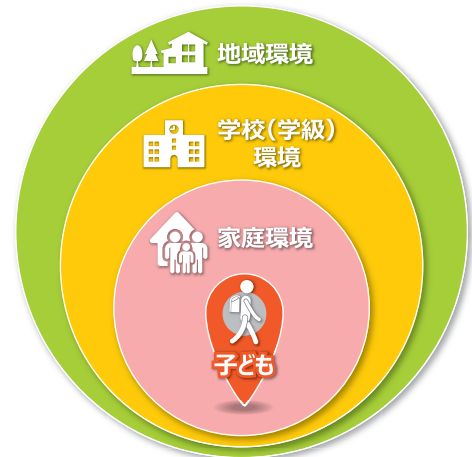


《ニッケ教育研究所顧問》 **勝本 孝夫**
元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）
 元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）

① 地域の“あたたかさ”を感じる

地域は、“3層のゆりかご”の一番外側にあります。言わば、安全・安心のための外壁となっています。そして、地域の“あたたかさ”が子どもたちを包み育むことで、“3層のゆりかご”全体の雰囲気をつくっています。この地域の“あたたかさ”を感じる事がとても重要です。単に言葉で捉えるのではなく、具体的にイメージできるかどうかです。

「あの公園には、子どもの安心のために毎日掃除しておられる方がいる」「あの通りには、子どもの安全のために立っておられる方がいる」「あの路地には、子ども見守りの旗が掲げている」など、地域の“あたたかさ”をどこまで具体的な映像として思い浮かべることができるかです。なぜなら、地域と一体になった学校づくりに不可欠だからです。



3層のゆりかご

② 家庭環境や保護者の願いを知る

子どもにとって一番身近な教育環境である家庭について、その状況を知ることが重要です。共働きか、2世代・3世代同居か、ひとり親家庭か……。それを知る手がかりのひとつが、学校や地域の運動会での昼食の光景です。最近では、家族で一緒にお弁当を食べる形式が増えてきましたので、そこで各家庭の様子を垣間見ることができます。私は昼食の時間になると、運動場に出ていくつかの家庭の方々に声をかけるなどしてまわりました。

祖父母と一緒に弁当を食べ、一家団欒のひと時を過ごす家庭を見ては微笑ましく感じたものです。また、家庭の事情で保護者が来られない子どもに、近くにいたご家庭の方が声をかけ、一緒に食べているのをよく目にしました。

③ 毎日の子どもの顔色や言動を見る

登校時や下校時、また、授業時や休憩時を通して、毎日の子どもの顔色や言動を見ることは、最も重要であるとは言ってもありません。体調や心の状態など、子どものSOSサインに気づくことができるからです。「こんなことは今までなかった」「どうも普段の様子とは違う」など、いつもと違うことへの気づきが大切です。

この光景に、地域の“共に支え合うあたたかさ”を感じるとともに、災害時の“共助”の姿に重なって思えてくるのでした。コロナ禍の影響で無気力や不安になったりする子どもが増えている今、地域の“共に支え合うあたたかさ”は、増々、重要になっていると言えます。

家庭環境とともに保護者の願いを知ること重要で、そのためには入学式前後の時期が大切になってきます。新入生の保護者からの学校への願いや要望を、スタートから確実に受け止めることができるからです。そして、“願いの共有”を6年間通してしっかりと受け継いでいくことが、学校づくりの土台となる“信頼関係構築”に欠かせないのです。

毎朝、登校する子どもたちを学校玄関で迎えてあいさつを交わっていたのですが、時折、登校途中の様子を見に行ったりもしました。学校周辺を自転車であつたり、地域の方の青パトに同乗してもらったりする中で、子どもたちの様子だけでなく、保護者・地域の方々の子どもたちへの“慈愛の眼差し”を肌で感じる事ができました。

④ 教職員同士が絶妙な関係を築く

“3層のゆりかご”に示すように、学校環境は、家庭環境と地域環境の間にあります。これは、学校には家庭と地域をつなぐ“キーステーション”としての役割があることを示しています。言いかえれば、地域の現状・特質を生かして、家庭と地域がどの方向へ進めば良いのかを示す役割を担っているのです。学校がこの役割を果たすことで、望ましい教育環境が構築され、子ども中心の学校づくりを推進していくことができるのです。

＜4つの心得＞からスタートする学校づくり

学校・家庭・地域のあたたかい関係性が築かれた“3層のゆりかご”と、これまで述べた＜4つの心得＞は、子ども中心の学校づくりに必要不可欠です。さらに、学校がめざす方向性を3者ではっきりと認識し共有できれば、何があっても微動だにしない学校づくりが実現可能になります。

そのときに必要となるのが「学校グランドデザイン」です。カリキュラム・マネジメントの考え方にとどまらず、家庭や地域との連携・協働によって、地域の特色を生かした学校づくりの全体構想を描くことが、何よりも大切だと考えます。

そして大前提となるのが、教職員同士が絶妙な関係を築くことです。そのためには、前述①②③の心得で感じたことや得た情報を教職員と共有することが重要です。なぜなら、教職員一人ひとりの特性や持ち味を生かしながら、“子ども第一”を中心に据えて共通の目標を持つことができるからです。職員朝会や職員会議、週案へのコメント等を通して、教職員とのコミュニケーション頻度を高めることが大切です。

世界が混迷の度を増し、予測困難と言われる時代にあつて、教育現場に押し寄せる課題は厳しさを増すばかりです。だからこそ、どんな状況下にあつても子どもの学び・成長を止めない、そのための「学校グランドデザイン」の必要性を痛感します。

さあ、新たな気持ちで、生まれ変わった心持ちで、新年度をスタートしたいものです。この1年間のご健闘を祈っています。

学校制服着用経験が共感性・攻撃性に及ぼす影響

～ 日本繊維製品消費科学会2022年年次大会より ～



学会参加報告

昨年6月25日・26日の2日間にわたり、一般社団法人日本繊維製品消費科学会の年次大会がオンライン開催されました。そこでは、当法人の市川祥子顧問＜甲子園大学心理学部現代応用心理学科 専任講師 博士（学術）＞が、「学校制服着用経験が共感性・攻撃性に及ぼす影響」と題した研究発表を行いました。その概要をご紹介します。

研究の主な目的は、「共感性と攻撃性を多次元として扱い、それらの関係性を検討すると同時に、共感性に影響を及ぼすと考えられる外的要因として学校制服の着用経験に注目し、その効果を検討する」というものでした。

子どもたちにとって、学校生活をおくる中での人間関係は大切なものです。なかでも他者の感情を理解することは、良好な関係を築く上で重要です。この感情理解という側面を持っているのが共感性です。共感性とは、同情とは違い、自己と他者の違いを理解した上で、他者の感じていることを自己の中に移し換えて感じ、他者の持つ世界観を自分の中につくり出していく能力のことです。生まれつき持っている行動傾向であるとの見方がある一方で、外的要因によって育むことができると考えられているようです。

共感性と攻撃性に、学校制服の着用経験が影響を及ぼすのかどうか。その効用が科学的に解明されることで、学校制服をひとつの社会的ツールとして上手く使いこなすことができるようになると考えています。

今回の研究の結果、児童期に学校制服の着用経験がある女子の場合、学校制服着用という同調性を経験することで、他者との関係における不安傾向が弱まる可能性が示唆されました。さらに、その不安傾向を低減することが、「短気」と「敵意」という他者への攻撃行動の抑制につながる可能性が示されました。また、学校制服着用経験が共感性の一側面である「個人的苦悩項目」に影響を及ぼす可能性が明らかになりました。なお、今回の調査研究については、さらに多角的に検討を重ねる必要があるとのことでした。

今後も学校制服のメリット／デメリットについての調査・研究を継続し、子どもたちを取り巻く学校環境・生活環境の改善に活用していきたいと考えています。

記・ニッケ教育研究所所長 橋本立志

※「2022年年次大会・研究発表要旨」から一部引用。

私がつくる 子どもの笑顔

子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざして、現場ではさまざまな創意工夫が行われています。「私がつくる 子どもの笑顔」では、現職の校長先生に学校づくりの考え方や具体例を紹介していただき、子どもたちを育てる学校環境についての意識を深めていきます。

第9回は、大阪市立すみれ小学校の北田雄三校長です。

第9回

小さな学校 大きな笑顔 ～「多様なつながりのある学習」の創造～

《大阪市立すみれ小学校》 きただ ゆうぞう 北田 雄三 校長

この4月に転勤となり、すみれ小学校の校長として新たなスタートを切りました。これまでの経験を活かしながら、教職員、そして保護者・地域の皆さまと一緒に学校づくりを行っていきたくと考えています。ここでは、前任の豊崎小学校で実践したことについてお話しします。

豊崎小学校は大阪市北区の淀川近くに位置し、児童数は180人程で小規模校です。現在、校舎の老朽化対策として、建て替え工事が進んでいます。私は、工事の方々にも遠慮なく教育に協力してもらいました。なぜなら、身近な人々や多様な文化、自然は、すべてが子どもの成長や学習につながると考えているからです。



「人とつながる」「文化とつながる」「自然とつながる」

現場監督さんにお話し、児童集会で、「校舎の建設は、日々完成に向かって少しずつ進んでいます。皆さんの勉強やスポーツへの挑戦もそれと同じで、少しずつ前へ進めば目標を達成できるのです」という趣旨の話をしていただきました。初めて聞く工事の方の話に、子どもたちも感じるものが多くあったと思います。私は学力向上が叫ばれる今こそ、数字では評価できない、多様な

つながりのある学習がますます重要になると考えています。それが子どもの総合的な学力や人間力を高める基盤となるのではないかと考えています。

今回は「つながる」をキーワードとして、「人とつながる」「文化とつながる」「自然とつながる」の3つのテーマで、子どもたちの大きな笑顔が輝く体験的な学習活動の実践を紹介させていただきます。

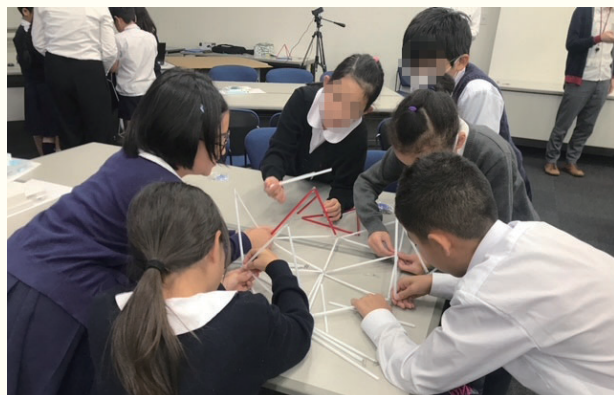
地域の企業の人とつながる

現在、多くの企業が社会貢献の一環として教育現場とつながろうとしています。そのことは、教育現場にとっても大きなメリット

があると考え、近隣企業とのタイアップによる体験学習を行っています。

総合設計コンサルタント会社

学校の北側にあり、建築の企画・設計をはじめ、幅広いサービスを提供している会社です。5・6年生を対象としたワークショップ「みんな小さな建築家」を、ワーキンググループ担当の方々と共に企画しました。子どもたちは実際に会社を訪問し、設計や建



築など多くのことを建築士から学びます。それを生かして共同で立体模型を製作しました。

このような、働く人を通じての学びのつながりは、多様な社会で生きる力を高めていくと考えています。なお、先方はこの取組で、2022年度の大阪府建築士事務所協会会長賞を受賞しています。

徽章製作会社

学校の西南にあり、メダルやトロフィーなど人を称える製品を作っている会社です。この会社では「人を称える」という意義から、感謝の思いを言葉や表彰状などに表すワークショップ「ほめる学校」を開催してきました。そして、豊崎小学校での実践を参考に北区の区長が発案し、感謝のメッセージを持った北区民10万人の写真を撮ろうという企画が始まりました。立場を超えて多くの区民の皆さんが参加され、見事に目標の10万人を上回り、ギネス世界記録に認定されました。

ビジネスホテル

近隣には、全国展開しているビジネスホテルがあります。2022年度から連携し、ホテルマンの仕事や宿泊体験をしようという企画を考えました。コロナ禍で困難もありましたが、子どもたちだけでホテルで学んで宿泊し、翌朝はホテルから笑顔いっぱい、ホテルの方々と一緒に登校してきました。

これらの、実践としてあげた3つの企業の担当者との懇談で、

伝統文化とつながる

4年生になると能楽体験を行います。重要無形文化財保持者で能楽師の山本博通先生と久田陽春子先生にお越しいただき、約2ヶ月にわたって能の作法や舞、謡、小鼓を学びます。稽古での子どもたちは真剣そのものです。教室の顔とは違います。稽古を終えた子どもたちは、大阪市中央区にある大槻能楽堂や山本能楽堂の本物の舞台に立ち、一人一人が能を舞います。引き締まった顔が舞台を降り、しばらくすると笑顔に変わっていきます。当然、稽古もしていない私は舞台には立たせてもらえません。子どもたちが能楽師の先生の精神に触れ、伝統を感じ、歴史ある舞台で能を舞う体験そのものが、伝統文化とつながっていることであり価値あるものと私は思っています。



多様な視点で自然とつながる

修学旅行は、大阪でただ1校だけ実施している、帆船「みらいへ」に乗船しての修学旅行です。大阪港から出港し、目的地は和歌山県の「地ノ島」(無人島)です。乗組員さんから集団行動や責任感についてなど、多くのプログラムを学びます。



圧巻は約30mあるマストクライミングです。ローブをしっかり握り、一步一步登っていきます。緊張で足が震えますが、見晴台の一人一人の笑顔がやりきった達成感を証明しています。また、実際に取舵、面舵と船の方向をかえる体験もあります。



さて、「地ノ島」へ行く目的は漂着ゴミの調査です。これはSDGsの学習の一つです。漂着ゴミであふれた海岸風景は衝撃的です。上陸した子どもたちは五感で海洋汚染を感じます。海水のマイクロプラスチックの調査も行い、帰校後は調査結果をもとに自然と人とのつながりについて考えて発表します。

修学旅行ですので楽しみもあります。入港して温泉に入ったり、お土産を買ったり、魚釣りをしたりします。夜は船で寝ます。これらの体験は、持続可能な社会の実現をめざす未来に生きる子どもたちにとって、かけがいのないものになっていると思います。

おわりに

今回紹介させていただいた体験的な学習活動は、すべてそれぞれの専門分野の方々子どもたちを指導してくださった取組です。私たち学校関係者も、指導してくださった方々や目を輝かせて活動する子どもたちから多くのこと学びました。あらためて、教

育は学校だけではできないと感じています。コロナ禍や諸事情で停滞している活動もありますが、これからも多くの人々と共に、そして子どもと共に学び続ける教育者でありたいと思っています。